

エネルギー・シフトと地域経済

ー脱原発の実現に向かっているドイツ自治体の実態ー

ラウパツハ・スミヤ ヨーク

立命館大学経営学部教授

脱原発をめざす首長会議
勉強会及び年次総会

2013年4月28日(日)

東海村 白方コミュニティーセンター



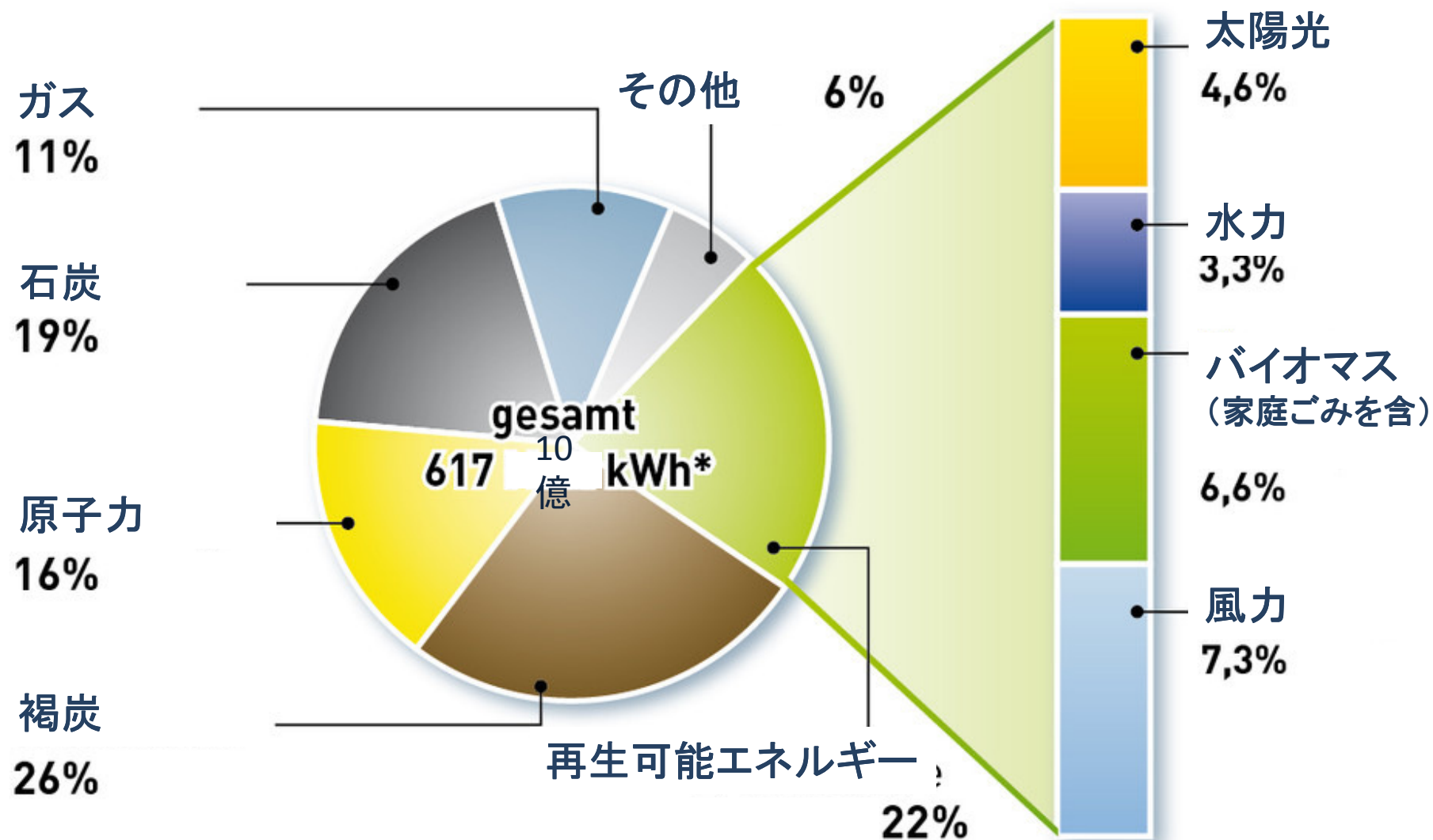
目次

- 序言 ― ドイツのエネルギー・シフト政策の実態と課題
- 再生可能エネルギーと地域経済
- 脱原発と原発立地市町村の現状と課題
- 提言

目次

- 序言 — ドイツのエネルギー・シフト政策の実態と課題
- 再生可能エネルギーと地域経済
- 脱原発と原発立地市町村の現状と課題
- 提言

ドイツの電力エネルギー・ミックス (2012年/電力発電総量)



Quelle: BDEW
Stand: 12/2012

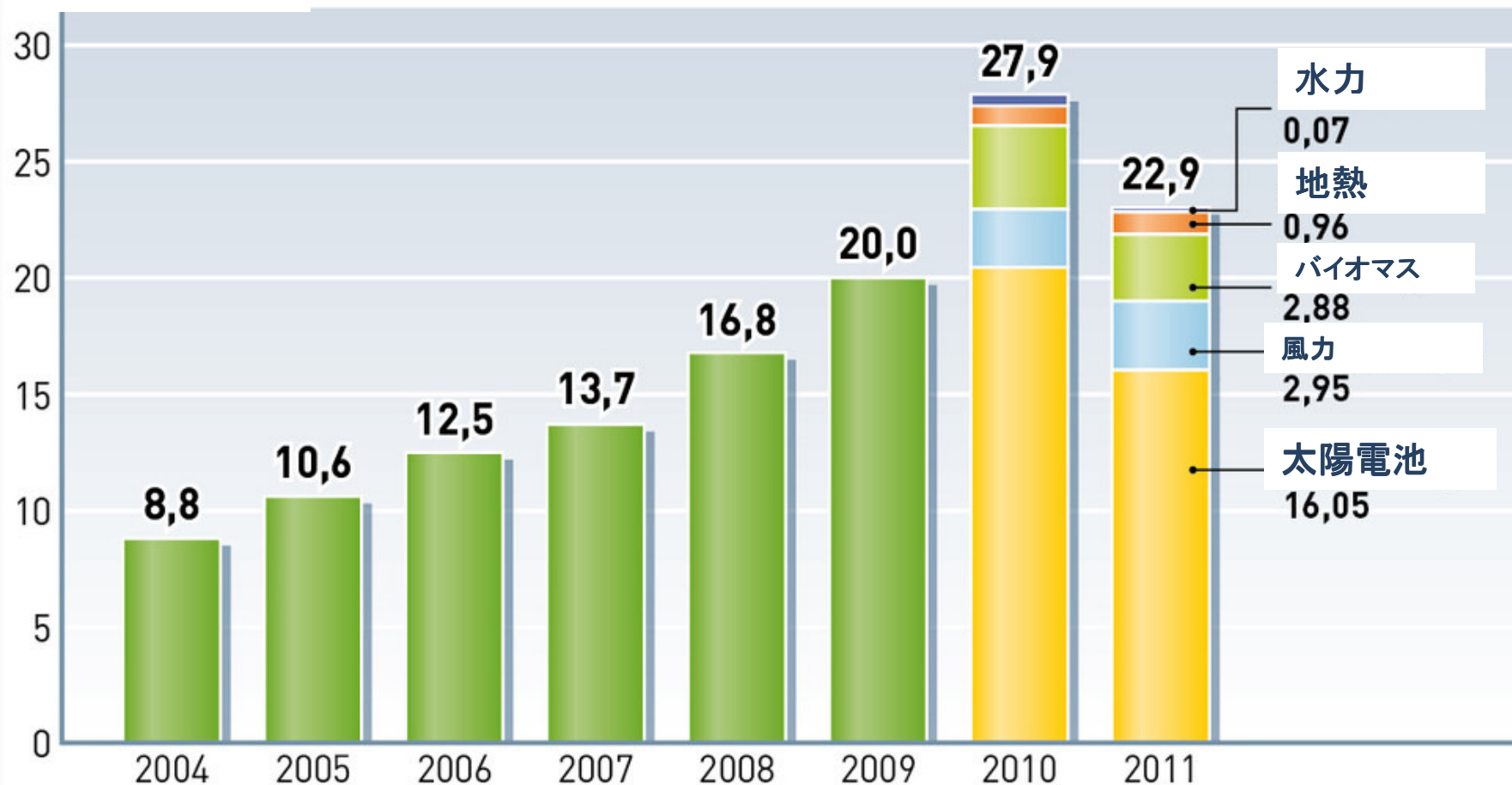
* 暫定、部分的試算、2012年12月現状)

www.unendlich-viel-energie.de

ドイツでの再生可能エネルギーへの設備投資

(2004年～2011年)

10億€

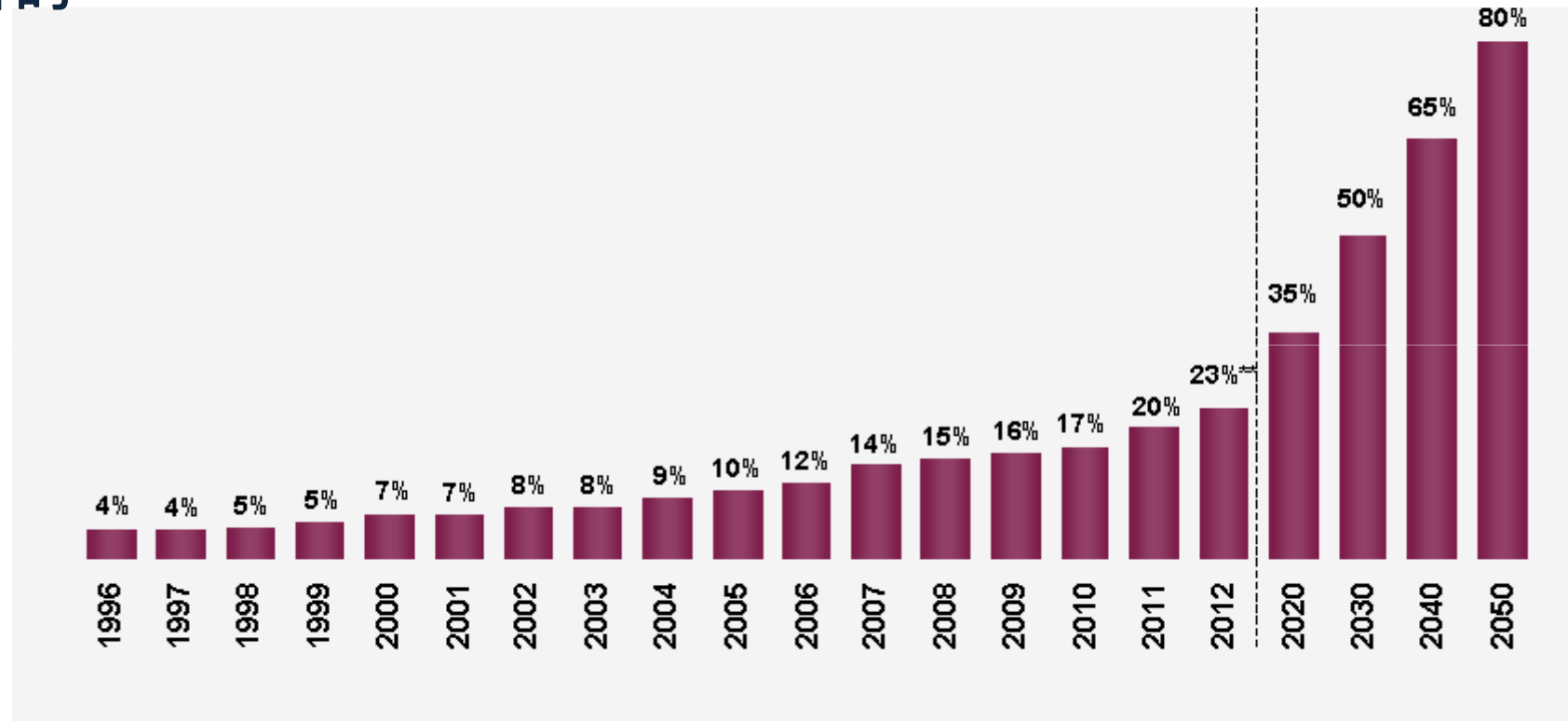


Quellen: BMU, AG EE-Stat
Stand: 3/2012

www.unendlich-viel-energie.de

ドイツのエネルギー政策： 再生可能エネルギーの促進

ドイツ政府の国内電力総消費に占める再生可能エネルギーシェアの目的

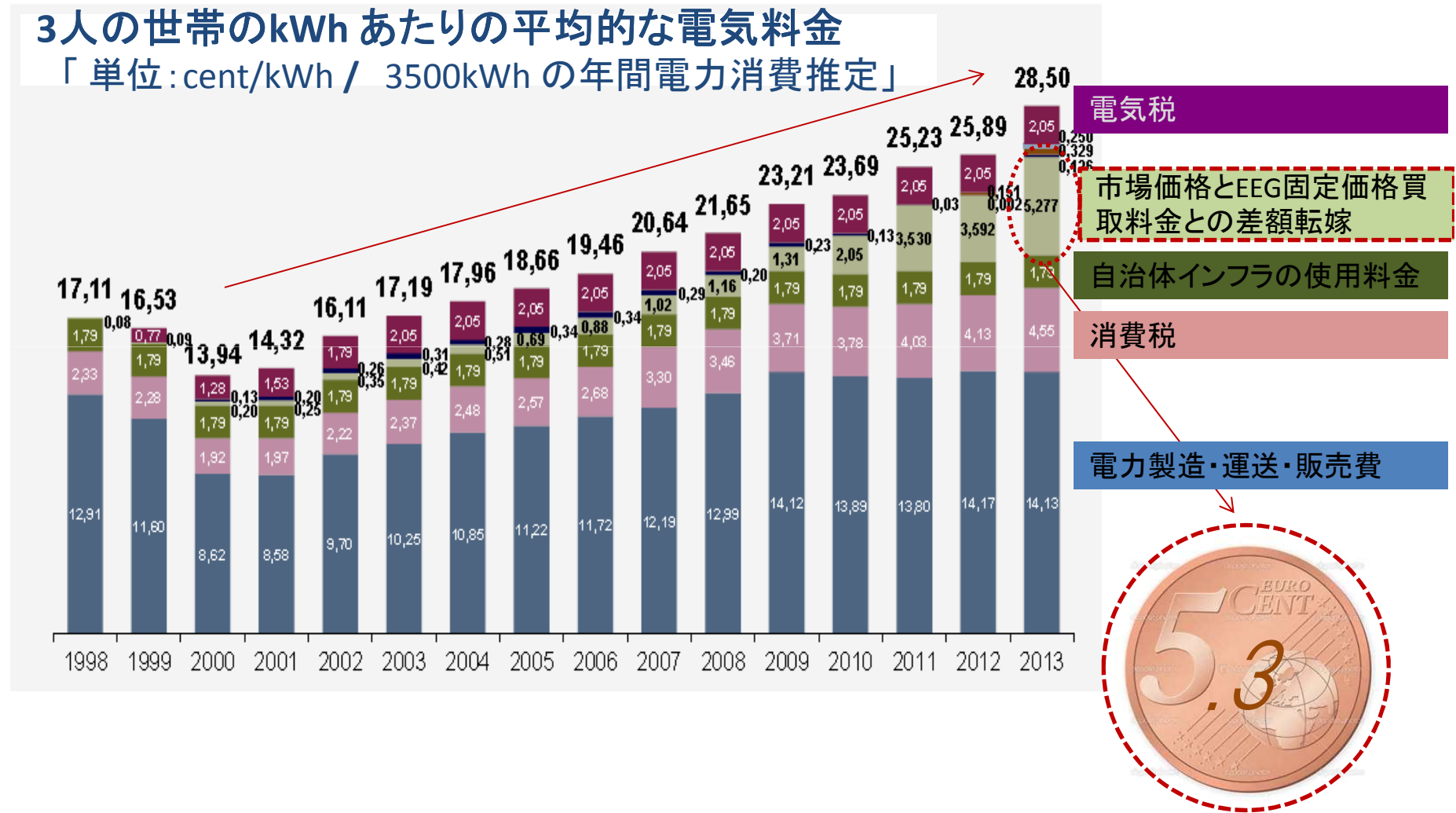


Source: Bundesverband der Deutschen Energiewirtschaft (BDEW), 2013 (ドイツエネルギー産業連盟)

再生可能エネルギーの普及によって電気料金が急激に向上するとは本当ですか？

3人の世帯のkWhあたりの平均的な電気料金

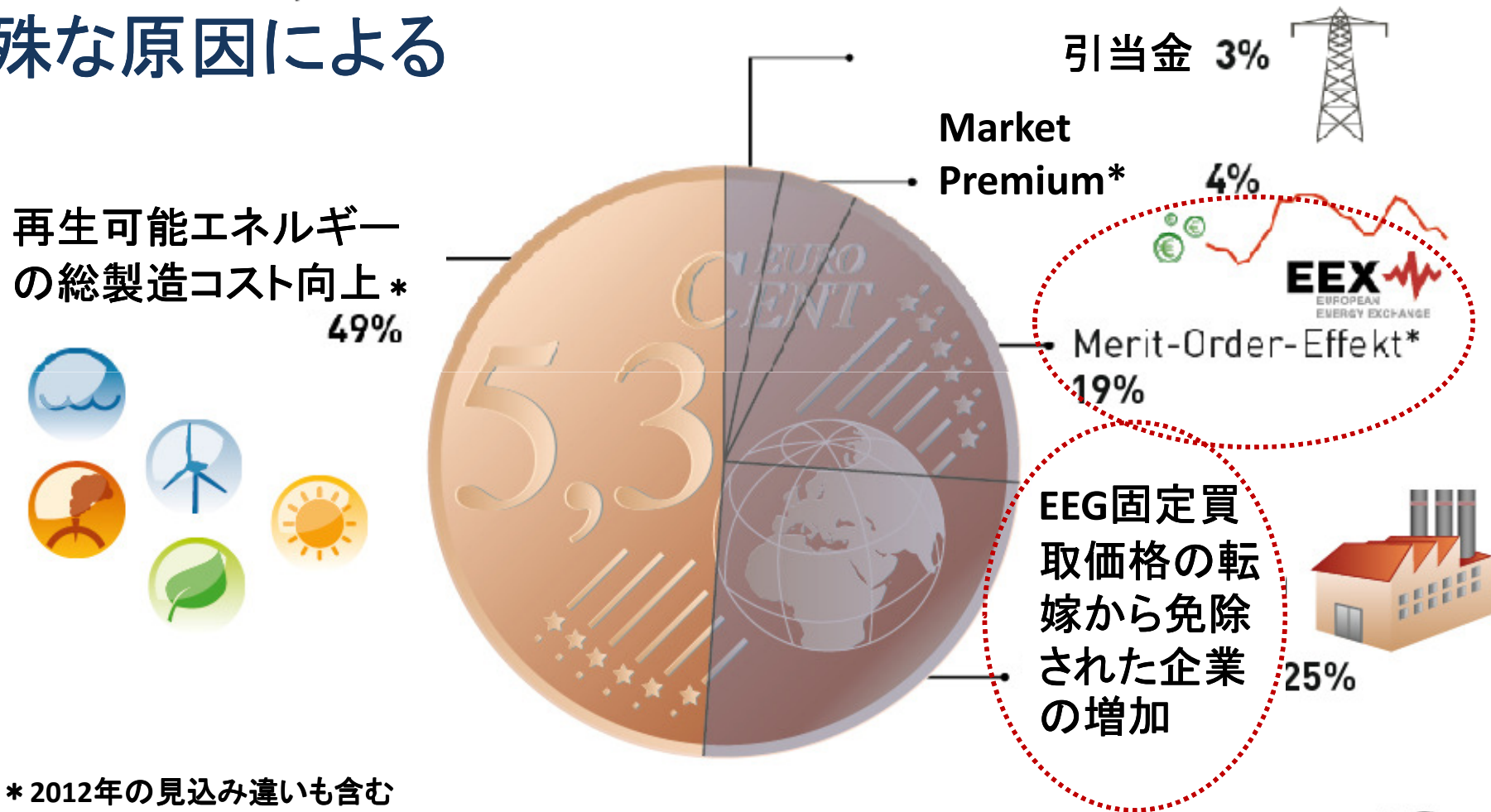
「単位:cent/kWh / 3500kWhの年間電力消費推定」



Source: Bundesverband der Deutschen Energiewirtschaft (BDEW), 2013 (ドイツエネルギー産業連盟)

5.3セントのEEG転嫁金額の49%は再生可能エネルギーの総製造コストの伸びによる、それ以外は特殊な原因による

引当金 3%

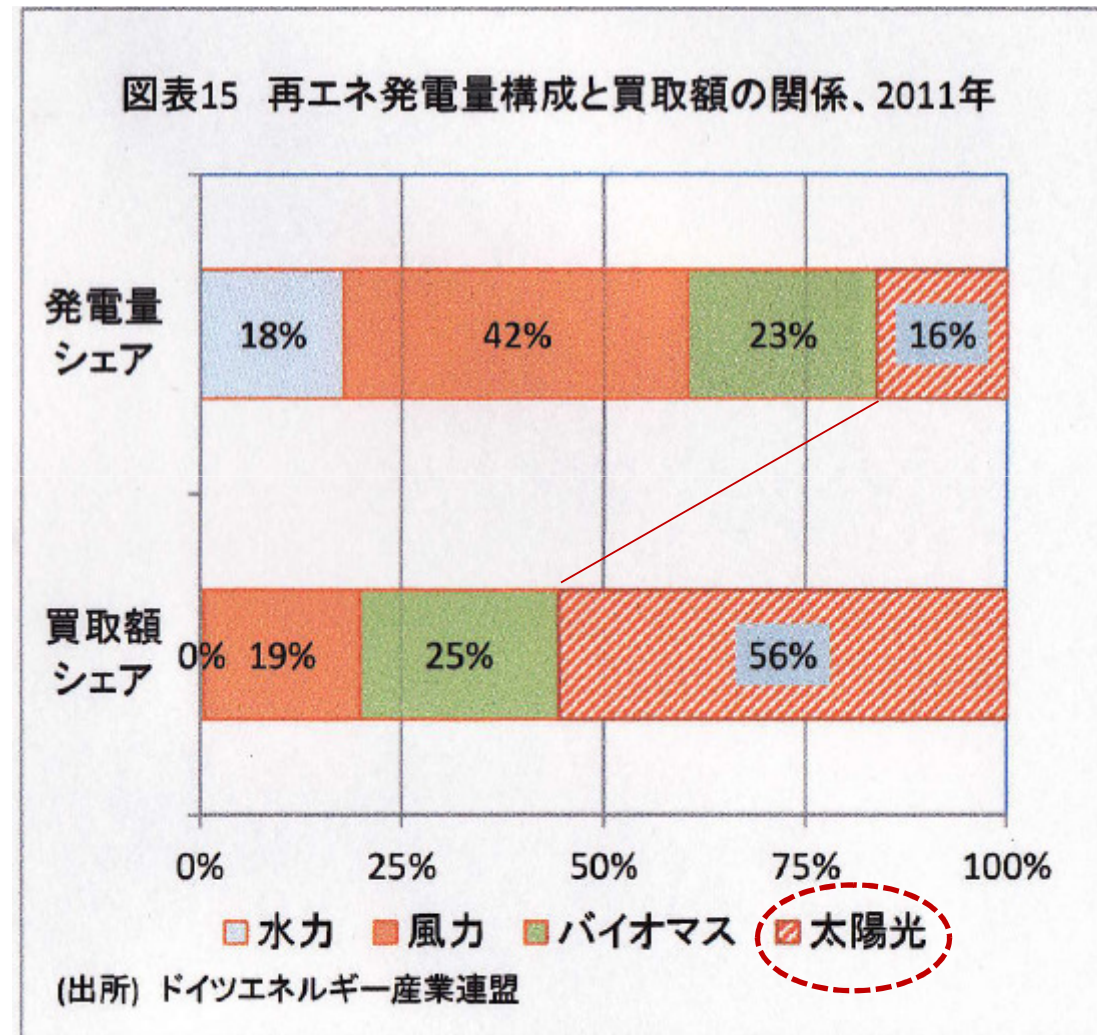


*** 2012年の見込み違いも含む**

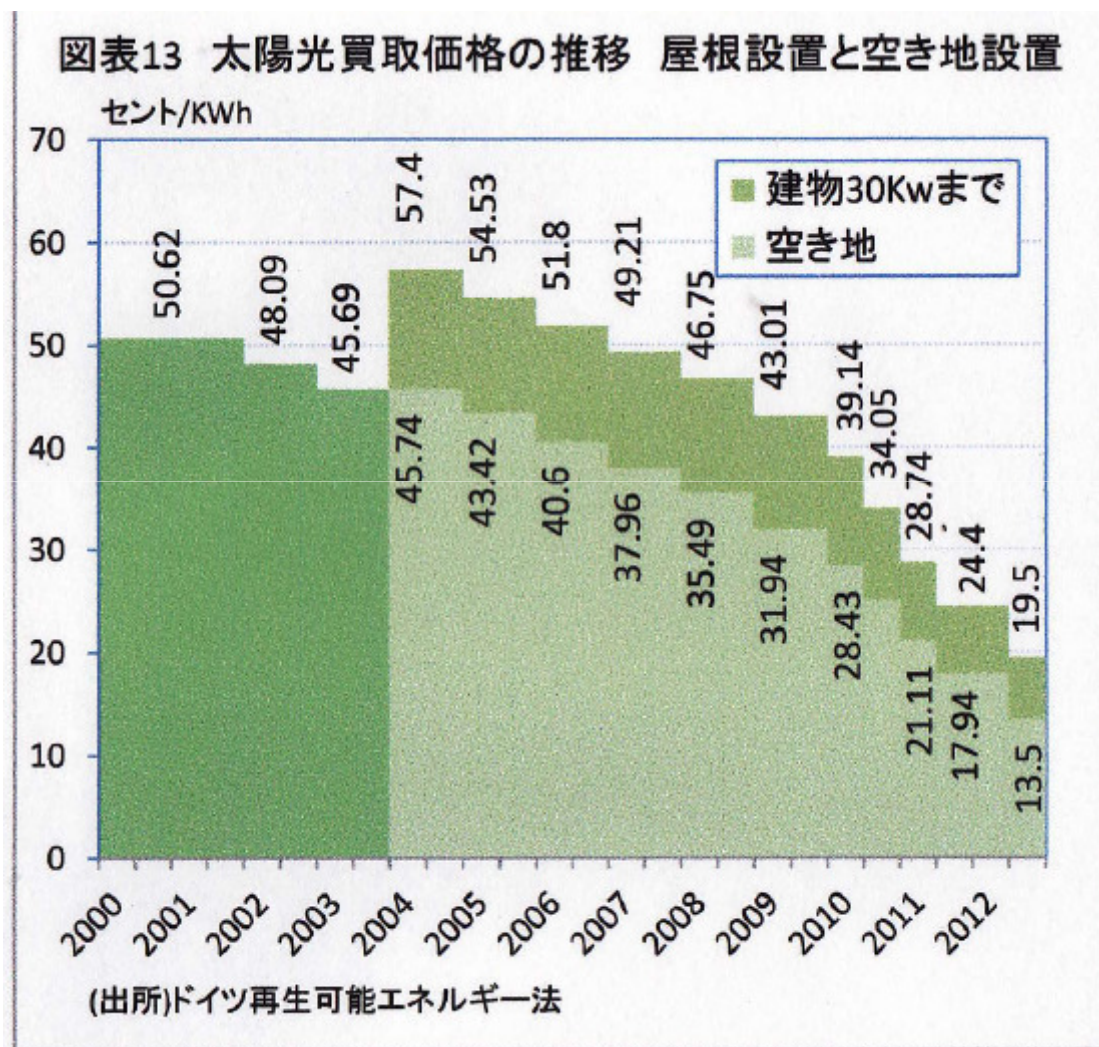
Quellen: ÜNB, BEE; Stand: 10/2012

www.unendlich-viel-energie.de

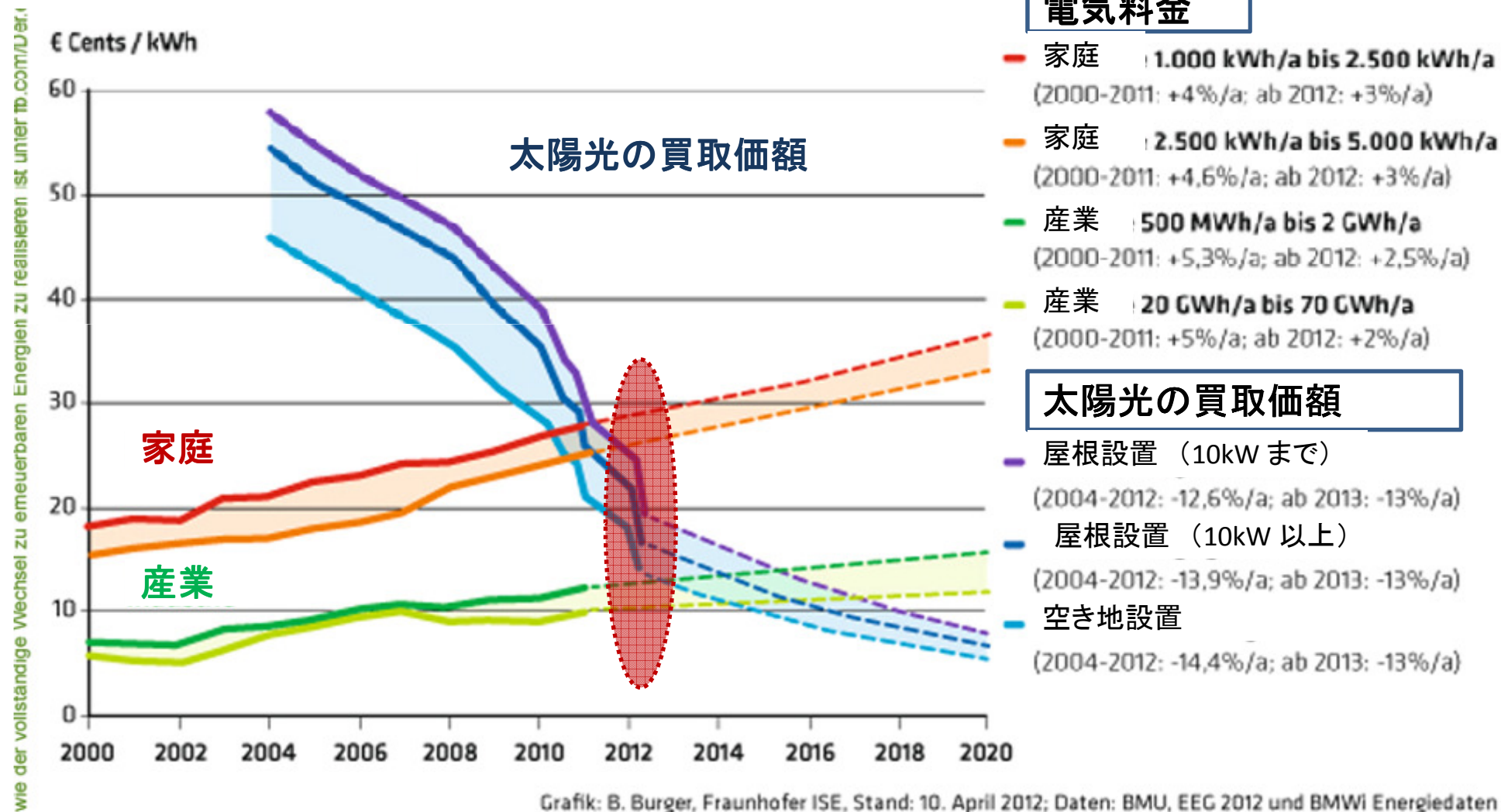
再生可能エネルギー総製造コスト向上の主な原因は割高な太陽光の急激な成長にある



しかし、太陽光の買取価額が急激に下がっている



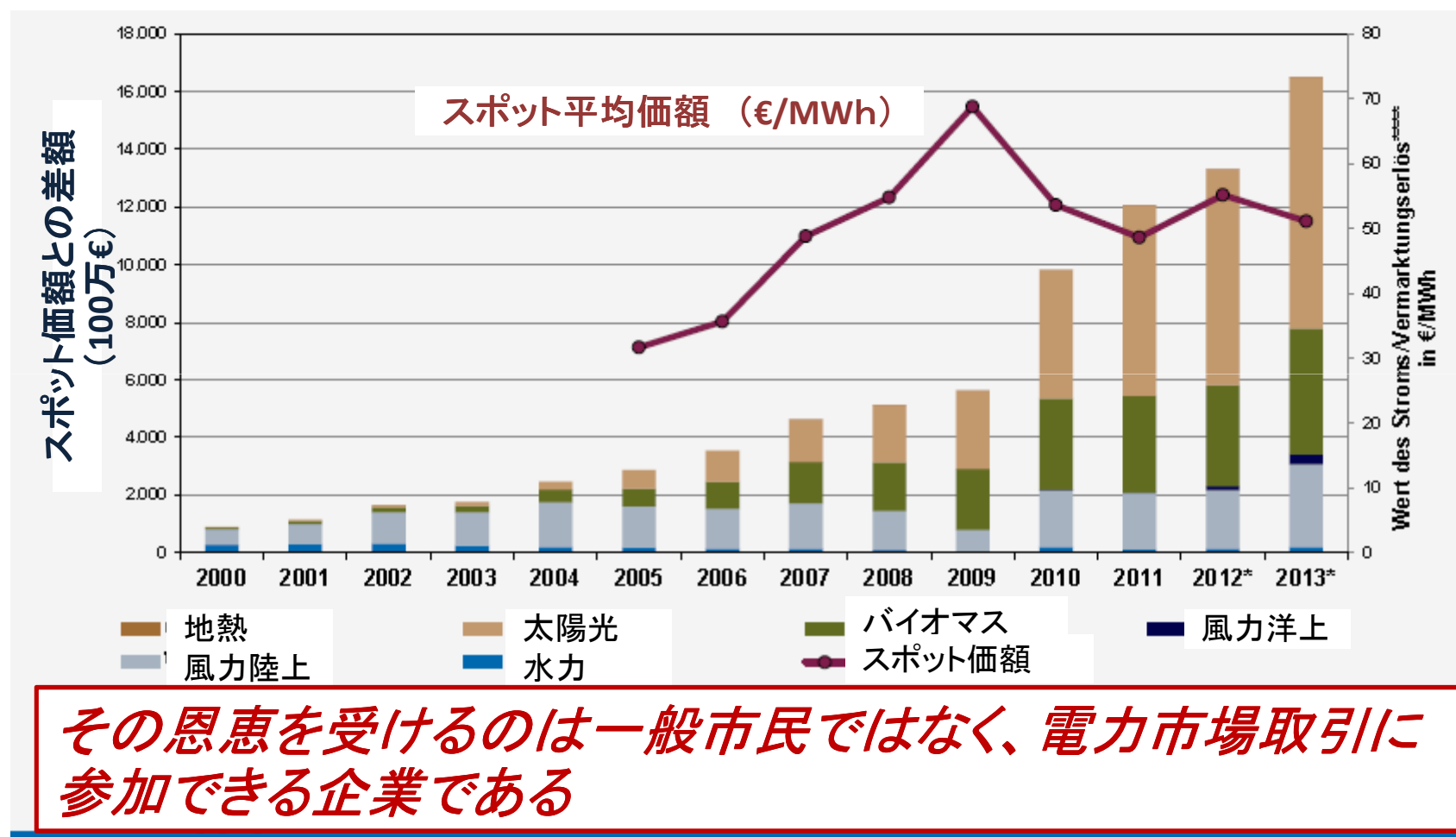
それによって、2012年中に太陽光はグリッド・パリティを達成した様子



Merit Order Effectとは

- 電力会社は再生可能エネルギーの供給者に支払う固定買取価格と、電力スポット市場の推定されている販売価格の差額を電力消費者に転嫁して請求します。
- 市場価格とEEG固定価格買取金額との差額は推定ですので、実際の市場価格の差が発生する可能性があります。
- 実際の市場価額が推定した価額より低い場合、EEG勘定がマイナスになり、その差額をEEG転嫁金額に上乗せすることになります。
- 再生可能エネルギーの急激な普及によって、電力市場のスポット価額が下がっている傾向にあります。それはなぜ？自由市場の価額形成の基本原理由より、需要を満たされるまでに供給されている電力は安い順番で買われている。その原理はmerit orderと呼びます。再生可能エネルギーが余っている時、そのコストは非常に安いです。その結果、再生可能エネルギーが優先的に市場に売り込まれることにより、電力のスポット価額が下がっていきます。

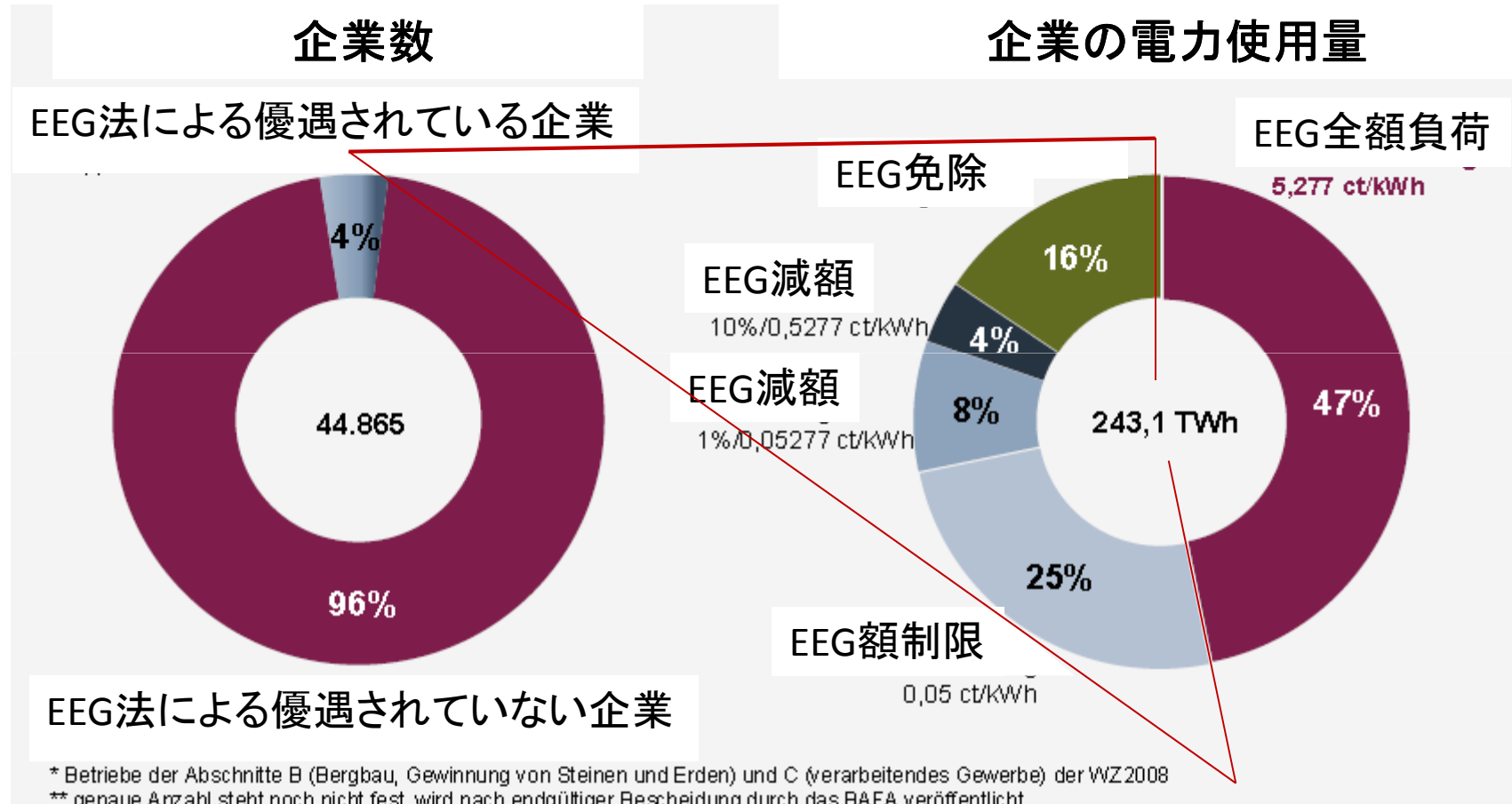
Merit Order Effect: 再生可能エネルギーの普及により電力のスポット価額が下がっています



Source: Bundesverband der Deutschen Energiewirtschaft (BDEW), 2013 (ドイツエネルギー産業連盟)

電力を大量に消費している、国際競争を直面している企業約2,000社は優遇扱いを受けている

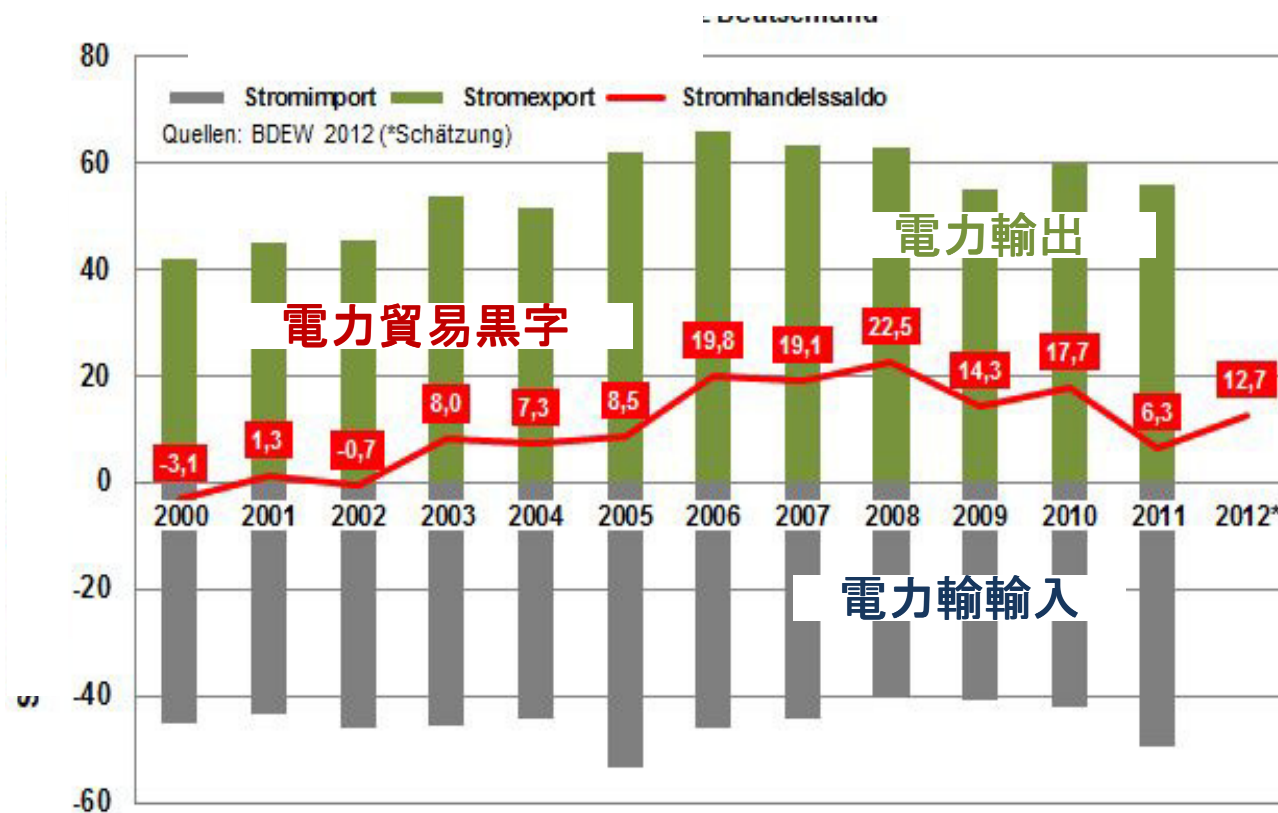
(EEG固定価格買い取りの振り替えから免除されているか、大部分負荷が減額されている)



Source: Bundesverband der Deutschen Energiewirtschaft (BDEW), 2013 (ドイツエネルギー産業連盟)

ドイツは相変わらず電力の輸出超過国である (2012年は見通し)

ー 電力は足りている



Source: Bundesverband der Deutschen Energiewirtschaft (BDEW), 2013 (ドイツエネルギー産業連盟)

総括

- Yes, 再エネ促進には高額な投資が必要
- Yes, 色々な課題がある
- But:
 - コストに関してもっと誠意・誠実な議論を！
 - Flexibleな分散型エネルギー・システム構築が必要 ！
 - 化石燃料の環境コストを適切に反映する必要性 ！

ドイツのエネルギー・シフトはドイツ統一に類似する、大変な努力と高い志を必要とする



でも、21世紀に相応しい、
次世代に誇りをもって渡せる
社会インフラを構築する国民
の固い決意

目次

- 序言 — ドイツのエネルギー・シフト政策の実態と課題
- 再生可能エネルギーと地域経済
- 脱原発と原発立地市町村の現状と課題
- 提言

コミュニティ・パワー



Gute Nachbarn
Starke Kommunen mit
Erneuerbaren Energien

<http://www.kommunal-erneuerbar.de/>

100ee erneuerbare
energie region



<http://www.100-ee.de/>

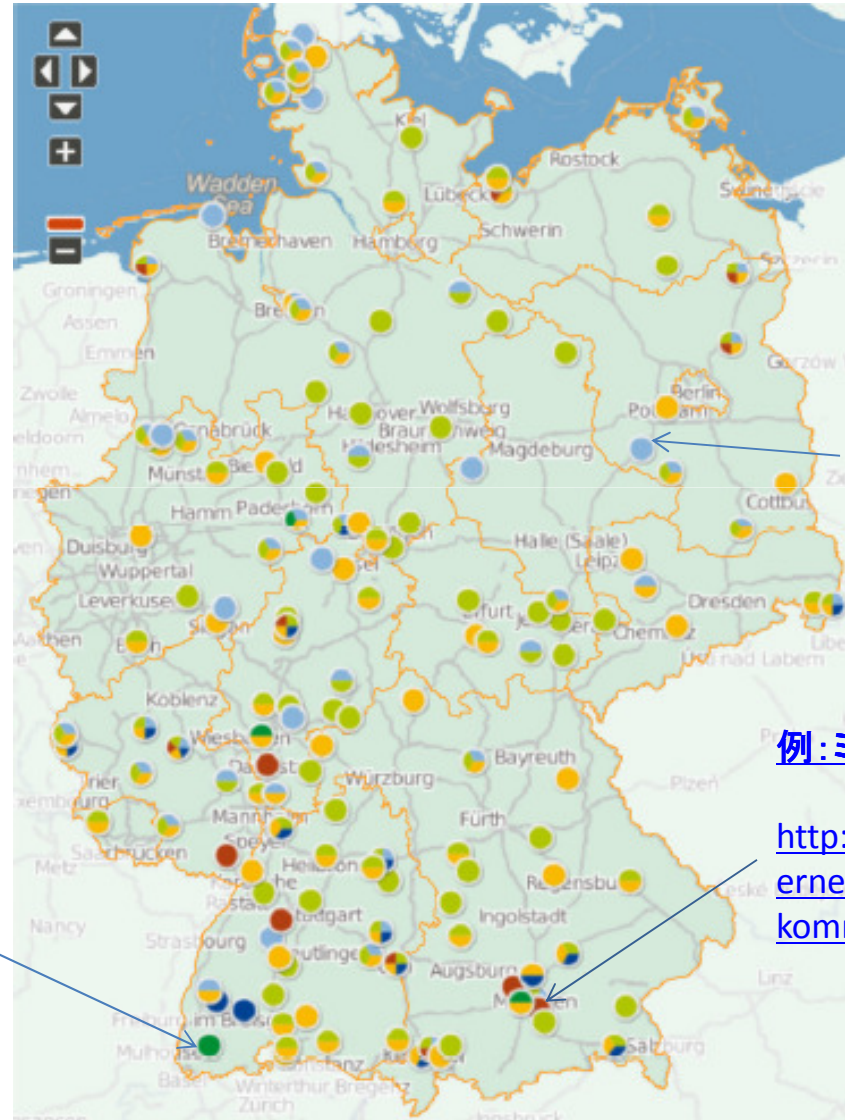


再生可能エネルギーによる100%の自給率を目指す 100EE自治体(2012年9月現代、132ヶ所/2000万人)



例:Schönau:

<http://www.ews-schoenau.de/>



例:Feldheim:

http://www.neue-energien-forum-feldheim.de/index.php?option=com_content&view=article&id=49&Itemid=55&lang=en

例:ミュンヘン:

<http://www.kommunal-erneuerbar.de/de/energie-kommunen/2009/oktober.html>

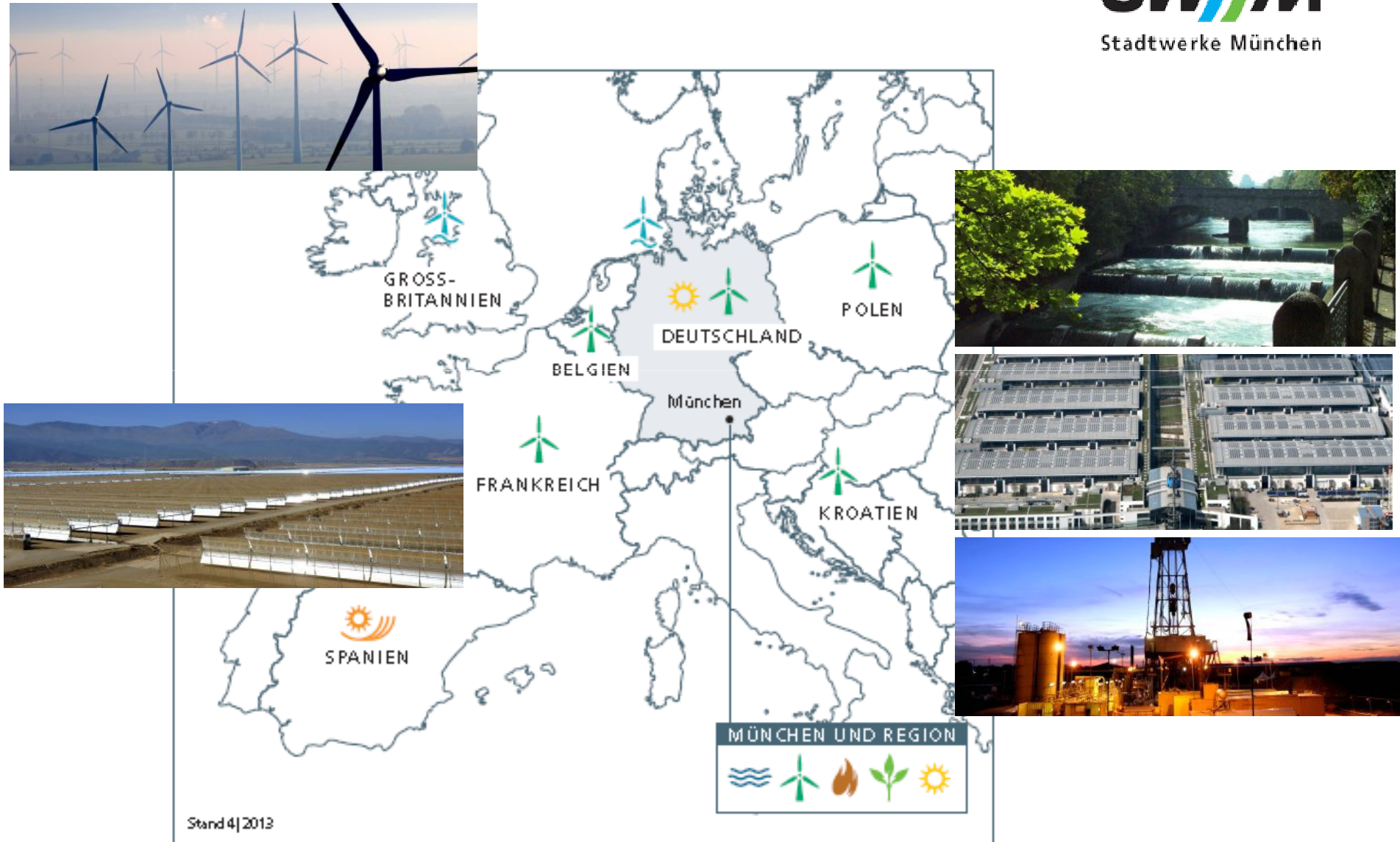


再生可能エネルギーによる100%の自給率を実現した 100EE自治体 — Feldheim



http://www.neue-energien-forum-feldheim.de/index.php?option=com_content&view=article&id=62&Itemid=68&lang=en

再生可能エネルギーによる100%の自給率を目指す 100EE自治体 — ミュンヘン



再生可能エネルギー発電所の市民共同組合の数

8万人の会員数、~220億円の資本金、~670億円の再生可能エネルギー投資、
290,000Mwh/ 83,000世帯分の再生可能エネルギー供給

(Deutscher Genossenschafts-und Raiffeisenverband e.V.の試算, Spring 2012)



Quelle: Klaus Novy Institut; Stand: 5/2012

www.unendlich-viel-energie.de



再生可能エネルギーの黒子:エネルギー組合 — Beng eG



Elementary & Junior High School Kirchheim/Heimstetten



Solarpark Aschheim



BENG
Bürgerenergiegenossenschaft eG



Burkhard Ulle

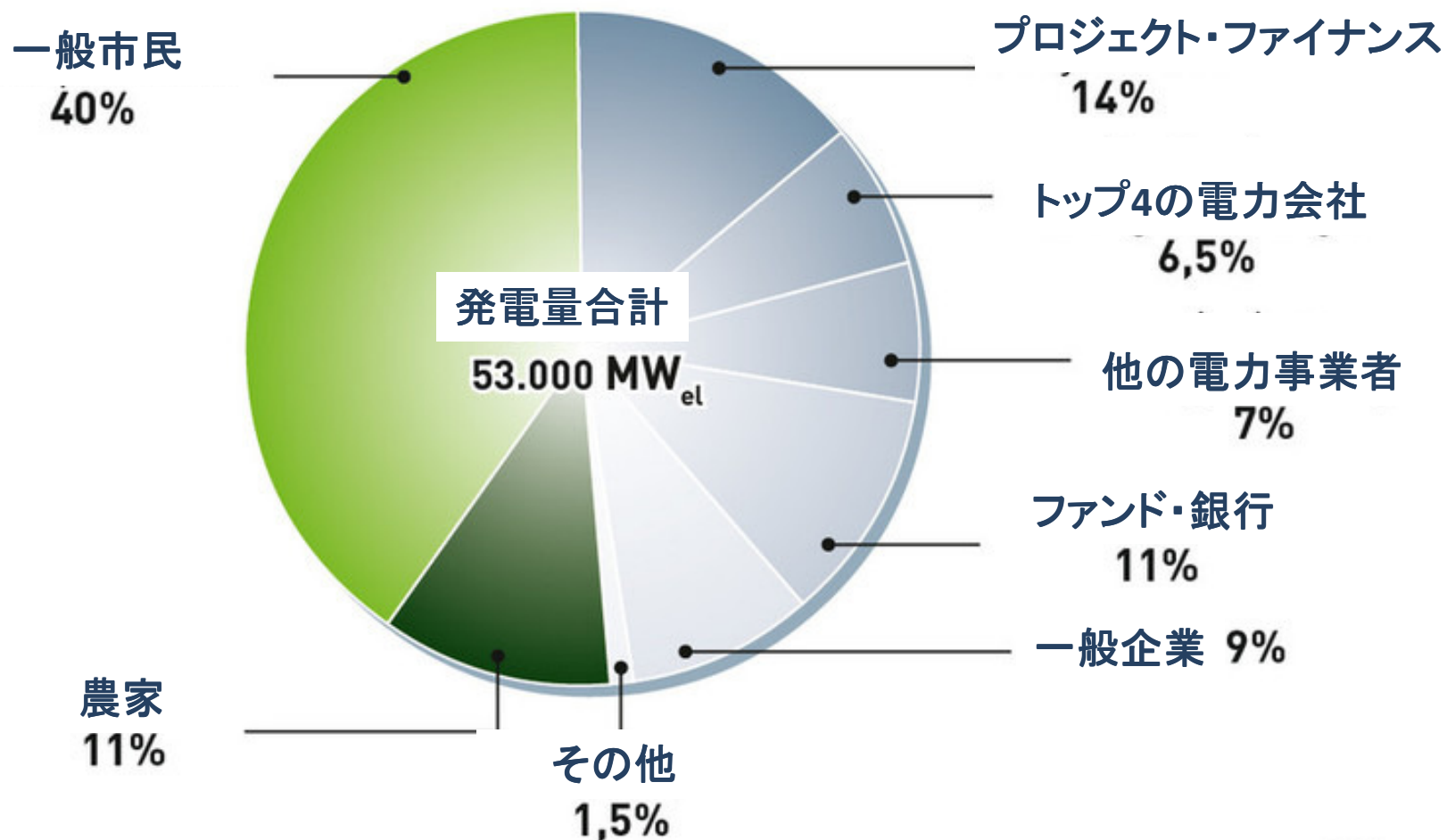
Roland Barfus

Katharina Habersbrunner

<http://www.sunnyportal.com/Templates/PublicPage.aspx?page=de1aeb0f-124b-443b-b2e5-9bcf1eca44c4>

再生可能エネルギーを市民の手で

再生可能エネルギー発電設備の所有権分配 (2011年10月現代)



Quelle: trend research; Stand: 10/2011

www.unendlich-viel-energie.de



EU電力市場の自由化（1996年～）



ATOMAUSSTIEG
SELBER
MACHEN.de

<http://www.atomausstieg-selber-machen.de/stromwechsel.html>



Energie-Genossenschaft
aus Überzeugung.



エネルギー・シフトの経済的な成果

- 一 雇用
- 一 地域経済
- 一 地球温暖化防止

ドイツの再生可能エネルギー業界の雇用

2020年までの目標
020: 500.000

従業員数

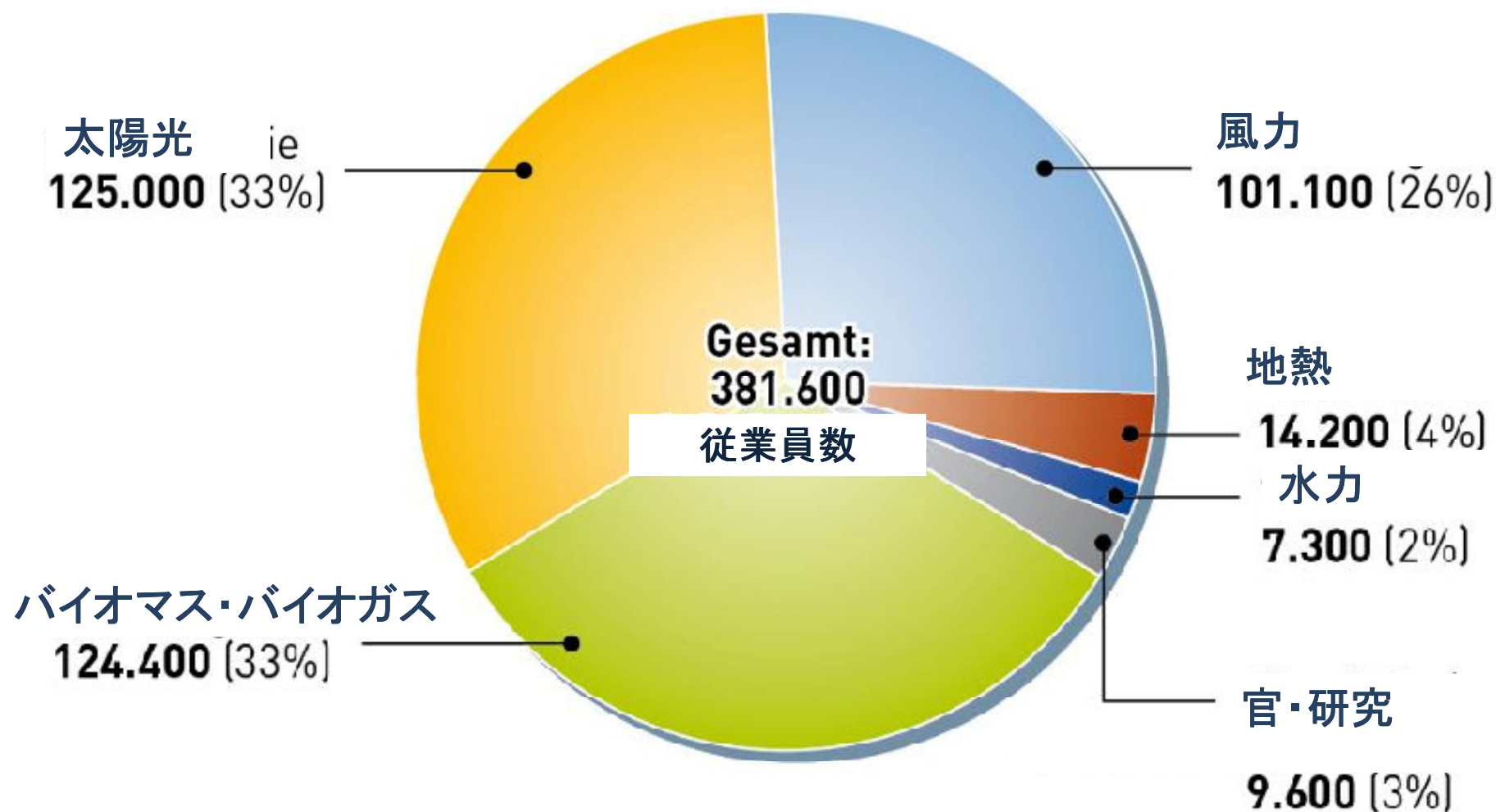


Quellen: BMU/AGEE-Stat, DLR/ZSW/DIW/GWS, UBA
Stand: 3/2011

www.unendlich-viel-energie.de



ドイツの再生可能エネルギー業界の雇用 (2011年)



Quelle: DLR/DIW/ZSW/GWS/Prognos
Stand: 3/2012

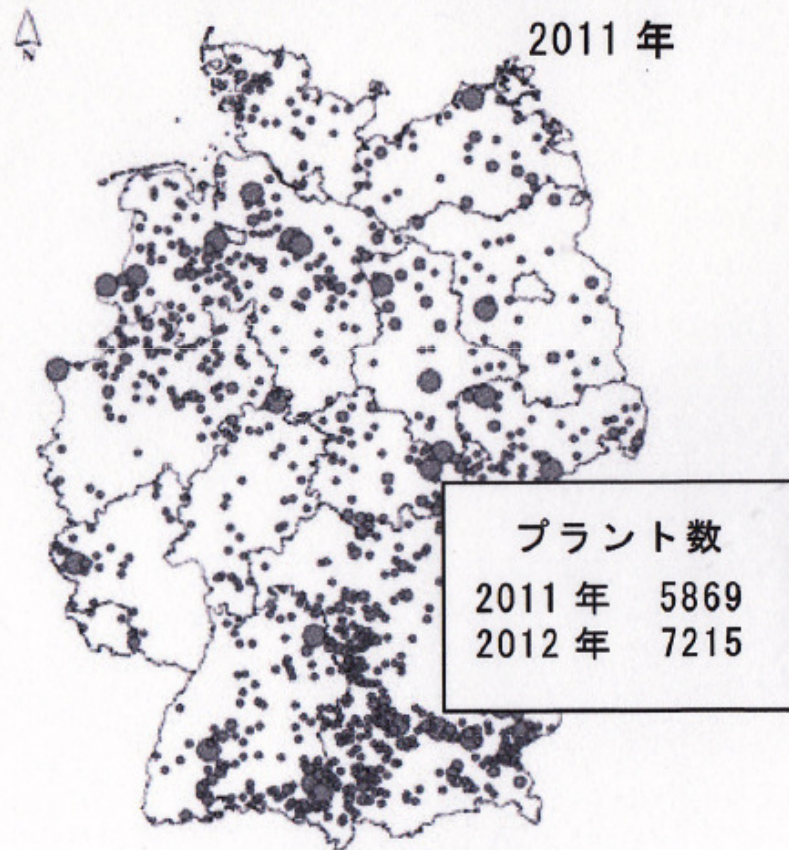
ドイツの再生可能エネルギー業界の雇用

従業員数	製造段階	サービス・用力供給段階		2011 年	2010 年
	設備関連 (投資・輸出)	設備運営	燃料供給		
風力	82,600	18,500		101,100	96,100
太陽電池	114,800	10,200		125,000	120,900
水力	3,200	4,100		7,300	7,600
地熱	10,500	3,700		14,200	13,300
バイオガス	30,900	39,300	54,200	124,400	122,000
官・研究				9,600	7,500
合計	242,000	75,800	54,200	381,600	367,400
	63%	34%			
自動車産業				744,000	
化学産業				429,000	

Source: Bundesministerium für Umwelt, Naturschutz und Reaktorsicherheit (2011), Statistisches Bundesamt

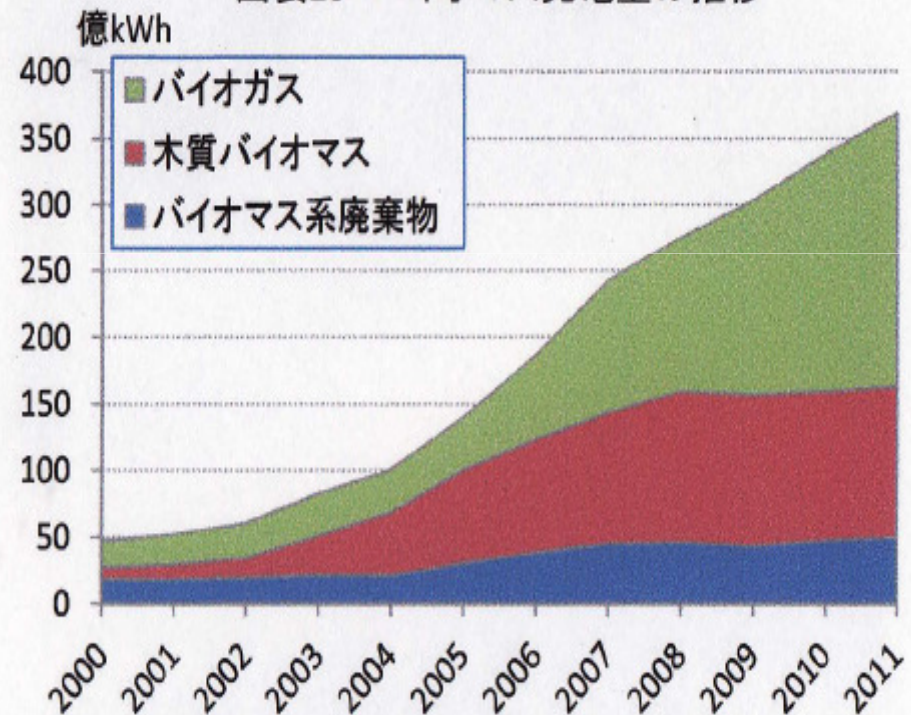
雇用増出効果は特に農業や旧東ドイツという構造的に弱い地域に大きい — バイオ・エネルギーが鍵

図表 24 ドイツのバイオガスプラント



(出所)ドイツバイオマス研究センター

図表20 バイオマス発電量の推移



(出所)ドイツ再生可能エネルギー統計2011、ドイツ連邦環境省

Source: 梶山 恵司、再生可能エネルギー拡大の課題 — FITを中心とした日独比較分析、富士通総研 経済研究所、研究レポート No. 396、September 2012

経済的付加価値の定義と測定

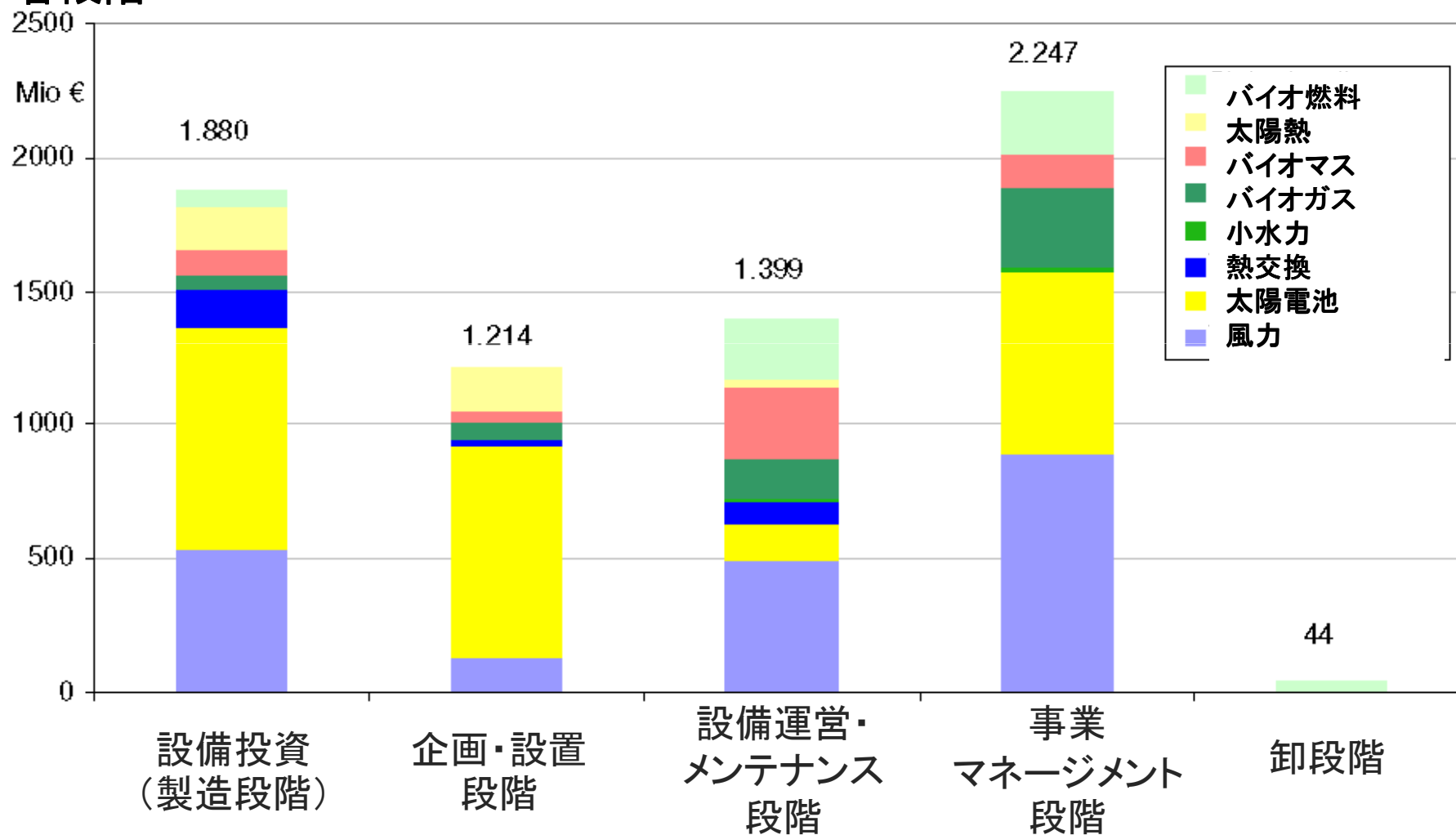
- ステークホルダーが受ける付加価値
 - 再生可能エネルギー業界で働いている**従業員の所得**
 - 再生可能エネルギープロジェクトをファイナンスする**地域金融機関の利息収入**
 - 再生可能エネルギー業界から受ける**自治体の税金収入**
 - 再生可能エネルギー**事業者の税引き後の利益**
- 再生可能エネルギー産業の経済的活動の段階
 - 再生可能エネルギーを作る設備や部品の**製造**
 - 再生可能エネルギープロジェクトの**企画・設置・導入**
 - 再生可能エネルギー設備の**運営・メンテナンス**
 - 再生可能エネルギー**事業マネジメント**

IÖWの試算モデル

- 4つの付加価値段階
 - 一時的な付加価値: 製造・設置の段階
 - 継続的な付加価値: 運営・メンテナンス・事業マネジメント段階
- 16つの再生可能エネルギー類(電力:9つ/熱:4つ/燃料:3つ)
- 付加価値の計算
 - 直接的な付加価値
 - 雇用創出
 - 炭酸ガス削減
- 3つの地区のモデル計算

IÖWの試算結果

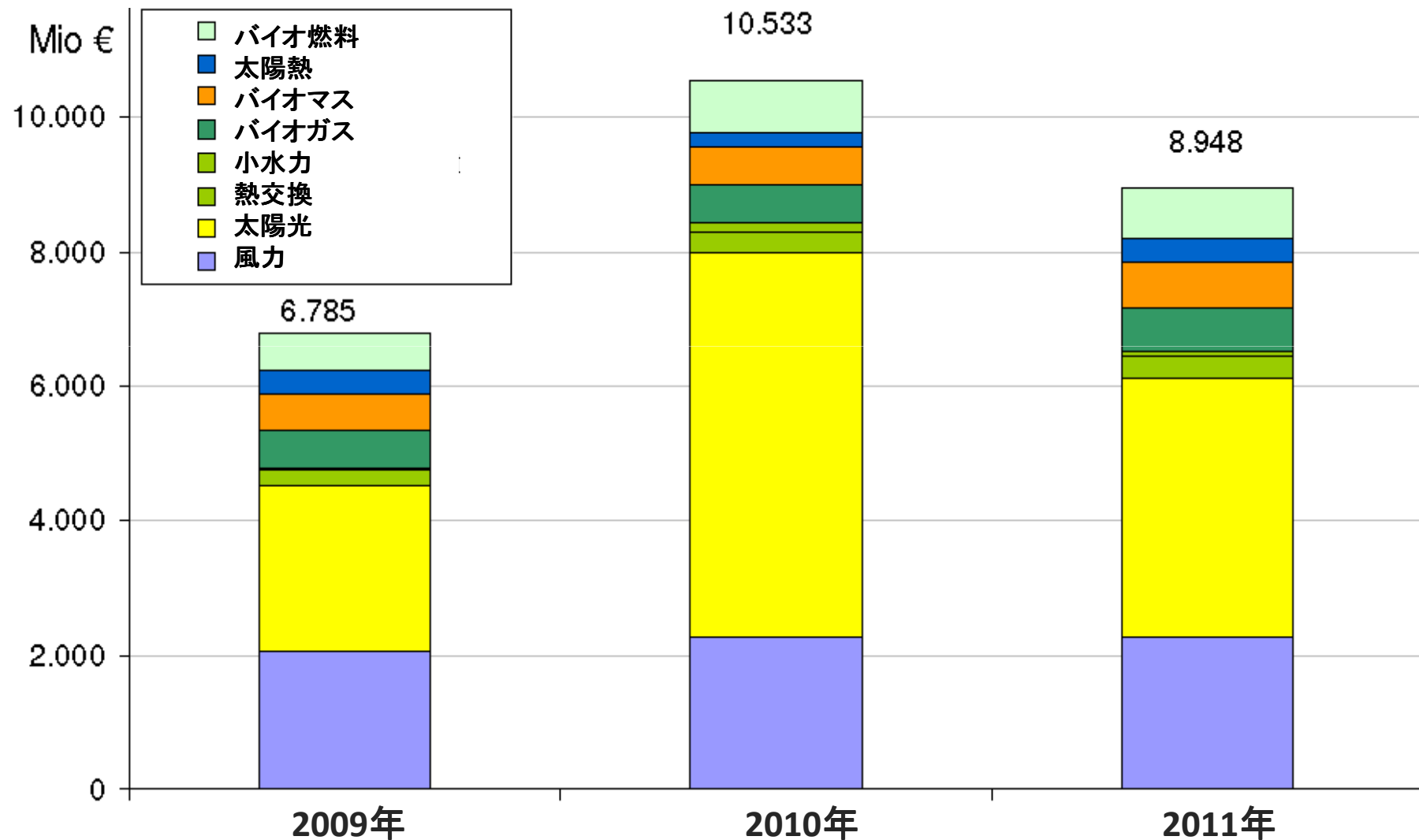
2009年のドイツの再生可能エネルギーによる地域経済の付加価値創出試算
ー各段階



Source: Hirschl / Aretz / Böther (2010), p. 6

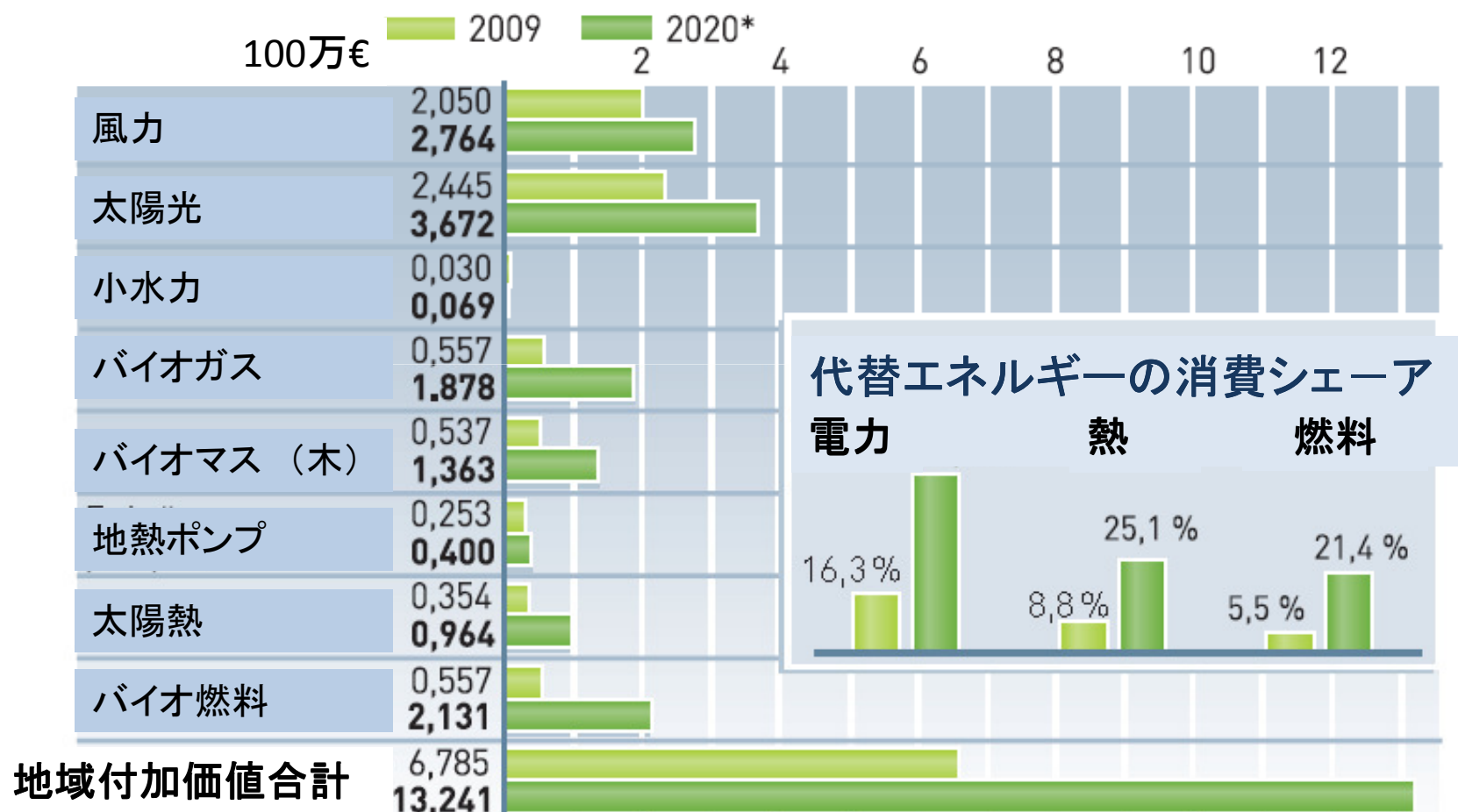
IÖWの試算結果

ドイツの再生可能エネルギーによる地域経済の付加価値創出合計



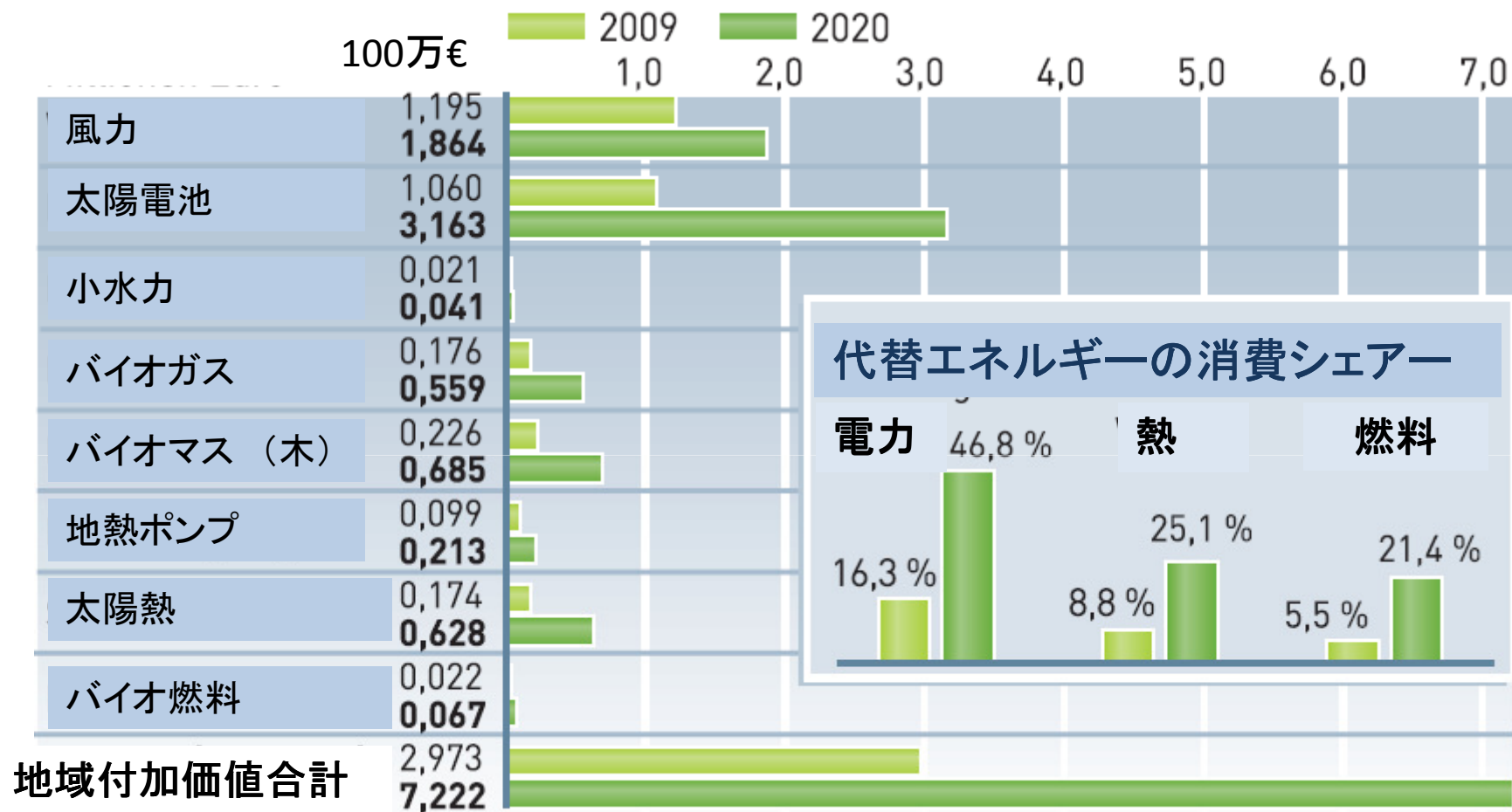
IÖWの試算結果：2009年と2020年

ドイツの再生可能エネルギーによる地域経済の付加価値創出合計 — 電源ごと



* 再生可能エネルギー協会のシナリオベース

IÖWの試算結果：人口75,000人のモデル地区



- 化石燃料費削減：2009年：290万€ → 2020年：3,760万€
- CO₂ 削減： 2009年：64,400トン → 2020年：176,000トン
- 直接雇用創出： 2009年：50人 → 2020年：115人

Source: Mühlhoff , Agentur für Erneuerbare Energien (Dez. 2010), p. 17

結論

- **Yes, community power works**

再生可能エネルギーの成長原動力は
市民と自治体である

- **Yes, renewable energy pays**

再生可能エネルギーは経済的であり、
地域経済の活性化に繋ぐ

目次

- 序言 — ドイツのエネルギー・シフト政策の実態と課題
- 再生可能エネルギーと地域経済
- 脱原発と原発立地市町村の現状と課題
- 提言

脱原発後、自治体はどうなる？ — ドイツ政府の基本方針

- 廃炉・解体の全責任分担
 - 研究用や旧東ドイツの原発：連邦政府
 - 事業用の原発（プロトタイプも含む）：事業主
- 事業主による廃炉・解体に関する基本方針
 - 廃炉・解体用のライセンス
 - 原発の完全解体、グリーン・フィールド戻し
 - Safe enclosureやHot areaだけの解体は例外
 - 廃炉・解体のプロセスは政府の統治機関は監視
 - 放射性廃棄物・使用済燃料を中間貯蔵施設で一時保管
 - 廃炉・解体プロセスや解体後に政府援助は無

Biblis A

Brunsbüttel

Isar 1

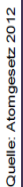
Krümmel

Neckarwestheim 1

Philippsburg

Unterweser

Biblis B



The map illustrates the distribution of 1000 companies in Germany in 2011 and the projected distribution in ~2022. The map shows various regions with company icons and labels. A yellow box labeled '2011' and a purple box labeled '~2022' indicate the time periods. The map shows a concentration of companies in the north and east, with a significant increase in the south and west by 2022.

ドイツ原発施設の解体・廃炉の数 (1970年～)

	原子力事業 (プロトタイプも含む)	研究施設	燃料施設	合計
解体済	11	8	4	23
解体中	3	15	3	21
合計	14	23	7	44

List of nuclear reactors under decommissioning prior to 2011



Prototypes

Plant	Type	El. Power in MWel	Operation Time	Status
VAK Kahl	BWR	16	1960-85	Removed
MZFR Karlsruhe	PWR	58	1965-84	Dismantling
AVR Jülich	GCHTR	15	1966-88	Safe Enclosure
HDR Karlstein	BWR	25	1969-71	Removed
KKN Niederaichbach	GCR	106	1972-74	Removed
KNK-II Karlsruhe	FSCR	20	1977-91	Dismantling
THTR Hamm-Uentrop	GCHTR	308	1984-88	Safe Enclosure
SNR 300 Kalkar	FSCR	No nuclear operation		Leisure Park

Commercial

Plant	Type	El. Power in MWel	Operation Time	Status
KKR Rheinsberg	PWR	70	1966-90	Dismantling
KRB-A Gundremmingen	BWR	250	1966-77	Dismantling
KWL Lingen	BWR	254	1968-77	Safe enclosure
KWO Obrigheim	PWR	357	1968-05	Dismantling
KWW Würgassen	BWR	670	1971-95	Dismantling
KKS Stade	PWR	672	1972-03	Dismantling
KGR-1 Greifswald	PWR	440	1973-90	Dismantling
KGR-2 Greifswald	PWR	440	1974-90	Dismantling
KGR-3 Greifswald	PWR	440	1977-90	Dismantling
KGR-4 Greifswald	PWR	440	1979-90	Dismantling
KGR-5 Greifswald	PWR	440	1989-90	Dismantling
KMK Mülheim-Kärlich	PWR	1302	1986-88	Dismantling



- 人口：～5,200人
- Obrigheim原発
 - 稼働機関：1968年～2005年
 - 357MW/25億kWh（年間）
 - 解体：2008年 ～ 2020年



多様な経済構造（中小・中堅企業中心）



PINTER
MESS- UND REGELTECHNIK

AMP
ASBACH MEDICAL PRODUCTS

SKT

E.C.E.
Brandschutz GmbH

Impreglon
WORLDWIDE QUALITY COATINGS



- Technoparkに企業誘致
- 測定技術・センサー技術
- 金属・樹脂加工・表面処理
- 職業・サービス

Bioenergiezentrum / Biomasseheizkraftwerk (バイオマス発電所)

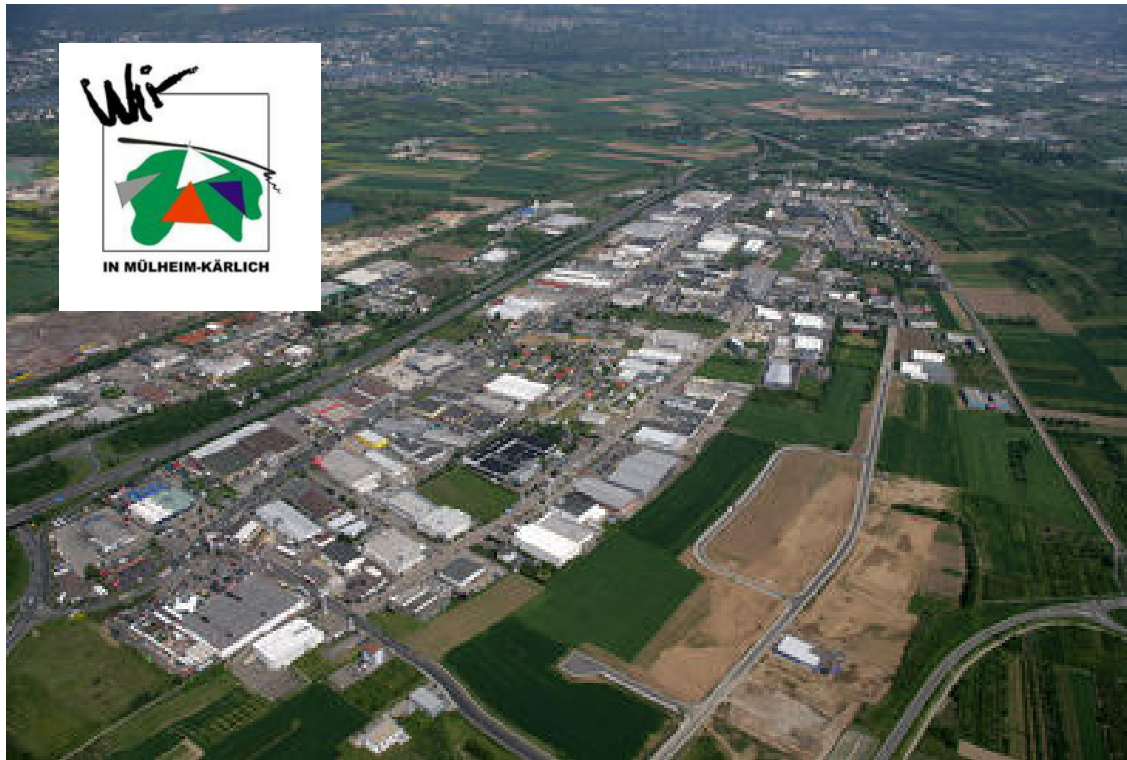


- 稼働: 2008年～
- エネルギー供給能力45,000人分の熱(22.5MW)と電力(6,470kW)



- ・ 人口: 12,000人 / 地震発生地
- ・ Mühlheim-Kärlich原発
 - 1300MW
 - 稼働機関: 1986年～1988年
(100日間だけ稼働)
 - 建設申請手続きの問題で、
裁判停止命令
 - 2001年で休業、
2014年まで解体終了予定





Mühlheim-Kärlichの経済構造

- 果物の産地、特にチェリー
- 大きな工・商業団地
 - 1967年にオープン
 - 230万平方メートル面積
 - 約300社（卸業、小売、サービス、製造）
 - 6000人の従業員





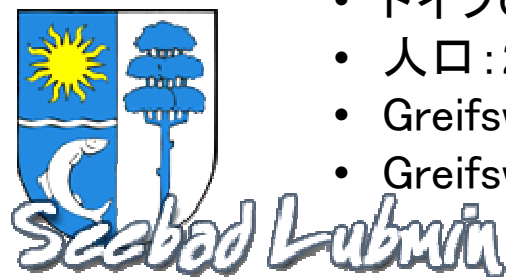
- 人口: 55,000人
- Lingen原発
 - 稼働機関: 1968年～1977年
 - 250MW
 - Enclosure (2008年), 2013年から解体
- 近くのEmsland原発はまだ稼働中
 - 1,400MW
 - 1988年から稼働
 - 2022年に停止
 - 中間貯蔵施設建設(2002年)



ガス発電所 (854MW)



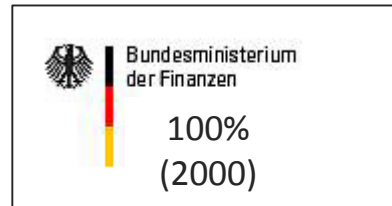




- ドイツの北東(旧東ドイツ)
- 人口: 2,000人 (1990年から25%人口増)
- Greifswald市(人口6万人、若い人口、大学町)の近く
- Greifswald原発の立地 (1990から停止)



ヨットハーバー



- ドイツ財務省の100%所有
- 原発の廃炉・解体事業
- ~900人の従業員
- 本社はLubmin市
- 原発立地の開発計画
- 国際協力・プロジェクト運営

AVR GmbH
Jülich (2003)



EWN GmbH
Greifswald (2000)



EWN GmbH
Rheinsberg (2000)



WAK GmbH
Karlsruhe (2006)



Zwischenlager
Nord GmbH
(1994)

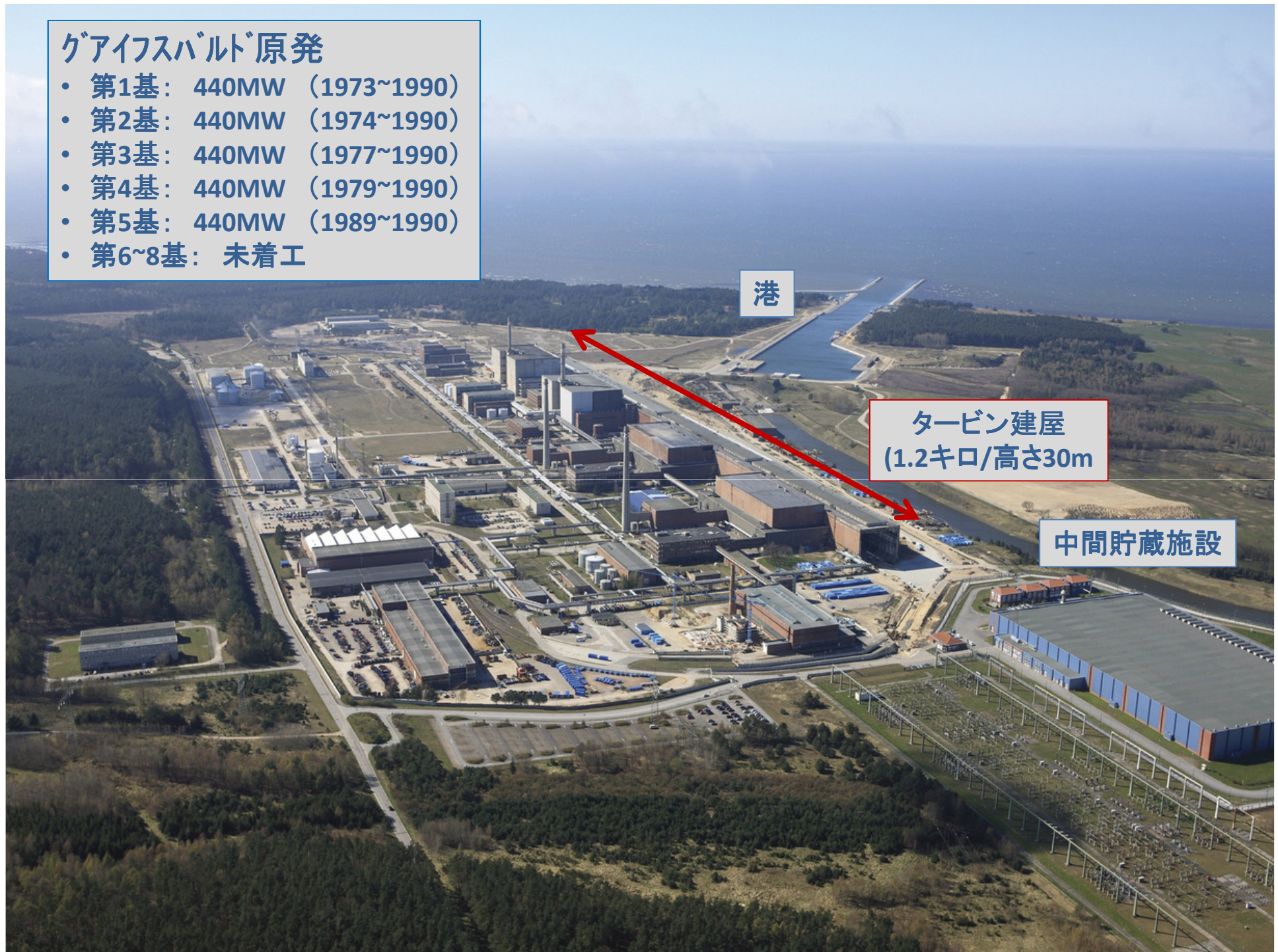
ゲアィスバルト`原発

- 第1基: 440MW (1973~1990)
- 第2基: 440MW (1974~1990)
- 第3基: 440MW (1977~1990)
- 第4基: 440MW (1979~1990)
- 第5基: 440MW (1989~1990)
- 第6~8基: 未着工

港

タービン建屋
(1.2キロ/高さ30m)

中間貯蔵施設





ソーラー発電所



海上風力発電の支柱



金属加工・表面処理



海上風力発電の支柱・パイプ



大型クレーン

Liebherr-MCCTec Rostock GmbH



50HERTZ



電圧変換送致

17 GI

18a

21

18

17 GE

24

27

8

バイオディーゼル燃料



Lubmin OILS

Technologiestandort

5

9

23

6

4

17 GI

造船の大型部品・構造物



MAB



25

Grund- stück Nr.	Firma	Produktion	Investition (Mio. €)	Arbeits- plätze	Status
	Energiewerke Nord GmbH	Stilllegung KKW/Betrieb Zwischenlager		816	In Betrieb
4	IRB-Bo-Rüst-Bau	Bauwesen, Service etc.	1,5	161	In Betrieb
9 + 23	RIS, BSR, Metallbau, Krandienste	Service etc.	3	306	In Betrieb
5	Lubmin Oils GmbH	Rohöl aus Raps / Biodiesel	25	39	In Betrieb
	Holcim	Beton und Zuschlagstoffe	0,4	1	In Betrieb
8	Zweckverband Wasser/Abwasser	Kläranlage	10		Im Bau
10/11	Zweckverband/ Marina Service L.	Infrastruktur Standort/Jachthafenbetreiber	35	7	In Betrieb
12	Bundespolizei	höchste Aufgaben	2	41	In Betrieb
16	EAT Wismar GmbH	Schiffbau/Pontonbau		65	In Betrieb
14	EnBW	GuD-Kraftwerk 1350 MW _e	800		Genehmigungsverfahren läuft
15	Lubminer Korrosionsschutz	Beschichtungen/Konservierungsarbeiten	4,7	33	In Betrieb
16	MAB/WF Marine	Stahlaufertigung	25	9	In Betrieb
18a	EEW Special Pipe Constructions	Windkraftanlagenbau	10	5	In Betrieb
18a	EWN	GuD-Kraftwerk 1350 MW _e	800		Genehmigungsverfahren läuft
21	Bladt Industries	Windkraftanlagenbau		61	In Betrieb
19	WINGAS	Gasanlandestation	130	5	In Teilbetrieb
	WINGAS	Gasleitungen OPAL/NEL	2x1.500		OPAL in Betrieb/NEL im Bau
	North Stream AG	North Stream (Ostseepipeline)	7.400		Erster Strang in Betrieb
20	BP Solar	Solarstrom (1,77 MW-Anlage)	7		In Betrieb
	EUROVIA Beton Süd AS	Abbruchserviceunternehmen		23	In Betrieb
22	Liebherr-MOCtec	Kranbau	5	116	In Betrieb
25	SCHertz Transmission	Freileitungsanlage	20		In Betrieb
	DLV	Bewachung		167	In Betrieb
	Max-Planck-Institut Greifswald	Modulfertigung		5	In Betrieb
Summe (ohne Gasleitungen und ZLN)			ca. 1.900	1.869	davon 816 EWN

EWN

Verbund

• Murmansk



• Ignalina



• Lubmin / Rubenow



• Nowoworonesch

• Rowno

• Tschernobyl



• Bohunice

• Saporoschje



• Koslodui



ロシアからの天然ガスを運ぶ海底パイプラインの終着点





2011年11月8日

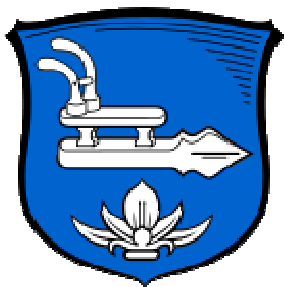


シュレーダー元首相

メルケル首相

メドベージェフ元大統領





- 人口：～8,700人
- Biblis原発2基
 - 稼働機関：1974/1976年～2011年
 - 1225MW/1300MW
 - 原発からの依存度が高い
 - 財政（事業税）
 - 1,000人の雇用（700人の直接雇用）
 - 間接雇用（土木、定期検査、宿泊）



脱原発の「Biblisの将来像」を描く



Dr. Hildegard Cornelius-Gaus市長

立地戦略策定

- 2012年6月キック・オフ
- Consulting会社の協力
- 企業調査
- 住民のアンケート(2012年8~9月)
- 住民フォーラム (2013年1月)



<http://www.zukunft-fuer-biblis.de/aktuelles.html>

ドイツの脱原発と立地 ― 総括

- 脱原発を直面した立地の多くは健全に発展している
- 脱原発後の立地再開発は政治的テーマではない
- ドイツの連邦制の下で、自治体の自立性が高い
- 中央政府や原発からの依存度は比較的に低い
- 強い経済圏に近く、健全な経済構造をもつ立地は多い
- フェース・アウトのプロセスには余裕

提言

- 原発立地か立地ではないかを問わず、再エネ促進を
- 再エネは地域の経済発展に繋げる
- コミュニティー・パワーの活用
- 脱原発をタブーにせず、立地の将来像を考える
- 乾式中間貯蔵施設の誘致を検討
- 開かれた政治・開かれた行政
- 「**自の力**」で地域を前進

2012年9月23日、美浜町町長に政策提案提出

① 廃炉のシナリオを考える — 町民の合意形成

- 廃炉に向かう政策オプション
- 廃炉プロセスに必要な体制
- 使用済み燃料の取扱い
- 廃炉跡地の有効活用
- 廃炉に伴う必要な支援策
- 電力供給地としての将来の役割

“ビッグ・テント”の
円卓で議論

② 地域経済・産業構造の将来図を描く — 戦略策定

- 地域の自立型経済・産業構造の戦略構築
 - ワークショップを通じたビジョンの定義
- 地域の「ヒト」や「生活」に焦点を絞った産業展開
 - 地域主導型自然エネルギー検討（コミュニティ・パワー）
 - 観光パッケージ戦略
- 知識イノベーションコミュニティ形成

マルチステークホル
ダーによる対話

福井新聞
2012年10月8日

町「原発ゼロ頭でない」
飯田氏の政策提案断る

12.10.8 M
NPO法人「環境エネルギー政策研究所」所長で大阪府・市特別顧問を務める飯田哲也氏が、原発3基を抱える福井県美浜町に提案

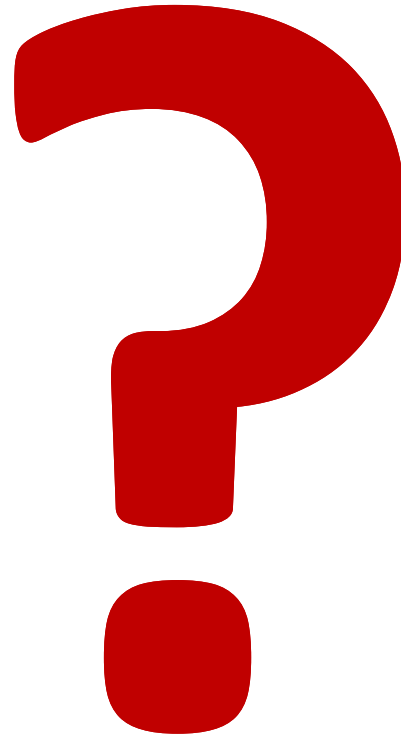
した「原発ゼロ」後のプロジェクトについて、町が「現状では原発ゼロに向けたまちづくりは念頭に置いていない」として断ったことが分かった。同町は4年後、全国の立地自治体で最初に全原発が40年の寿命を迎えるため、地元の市民団体が同研究所に政策提案を依頼していた。

同町などによると、飯田氏は9月23日、町役場で山口治太郎町長と約2時間会談した。「美浜モデルの構築―自然エネルギーである町に」と題した提案書を渡し、町の将来像を描くために町長直轄の民産官学連携のプロジェクトチームを発足するよう提案。同研究所が政策アドバイザーとして支援すると申し出た。町内に使用済み核燃料の中間貯蔵設備を受け入れて国から補償を受けることや、再生可能エネルギーの促進なども示した。山口町長は毎日新聞

の取材に「再生可能エネルギーには取り組みたいが、日本は原発をやめられる段階にはないと思う。政策提案は断った」と話した。同町の今年度一般会計当初予算は、電源3法交付金や原発の固定資産税など原子力関連の歳入が4割を占める。原発関連の仕事に就く町民も多く、町財政や地域経済は原発に依存している。

今年6月に成立した原子力規制委員会設置法は、原発の運転期間を原則40年と定めた。今年、美浜原発の運転期間は1号機が42年、2号機が40年、3号機

が36年となり原発ゼロ後の雇用や暮らしに不安を抱える住民も多い。同町で脱原発活動に取り組み、政策提案を依頼した市民団体「森と暮らすどんぐり倶楽部」の松下照幸代表(64)は「原発に代わる経済基盤が必要」としている。【柳葉未来】



古き良き時代を取り戻すのは不可能 —
地元の「**自の力**」で地域の前進を

自

の

力

自尊心

自主性

自立精神

自治体

「清聴ありがとうございました」

